



【ホクレア号と内野加奈子】

かつて、ハワイには、海図もコンパスも持たずに大海原を渡る航海術が伝わっていた。ホクレア号はその航海術の復活を目指して1975年に建造されたカヌーである（「ホクレア」とは、ハワイ語で「喜びの星」を意味する）。ホクレア号は1976年にハワイからタヒチへの航海を達成し、一度は失われたハワイの航海文化を復活させた。2007年には、ハワイから

日本への6,000km以上に及ぶ航海を成功させたが、そのクルーの一人に内野加奈子がいた。

本課では、内野がホクレア号に関わるようになった経緯、ホクレア号で用いられる航海術、日本への航海中に内野の胸に去来した思いなどが語られる。語り手、内野のことばに耳を傾けてみよう。また、本課のタイトル「カヌーは島だ」ということばが意味することについても、あわせて考えてみたい。

● 扉のことば

See the road,	道を見て、
Know the road,	道を知り、
Become the road,	道になれ、
That is the journey of the navigator.	それが航海者の旅だ。
—Nainoa Thompson	—ナイノア・トンプソン

最初の3行は、それぞれ動詞の原形で始まっている命令文。4行目はThatが主語、isが動詞、the journey of the navigatorが補語の〈S + V + C〉の文。Thatは前の3行全体を受けている。road「道」は比喩的に「航海の道（≡航海術）」を、journey「旅」は「生きる過程」を表しており、全体として、伝統航海術の要諦を示したものと考えられる。

Nainoa Thompson (ナイノア・トンプソン 1953-) は、ハワイのオアフ島に生まれたアメリカ国籍のハワイ先住民で、カヌー航海者として活動し、ポリネシア航海協会会長を務める。ホクレア号には、1976年の初航海よりクルーの一員として関わり、2007年のハワイー日本間の航海でも、航海長（ナビゲーター）としてチームを先導した。

A Canoe Is an Island

以下のことを考えながら読んでみよう。

- (1) 内野さんがクルーになったのはどのようなカヌーですか。
(2) 内野さんはどのような経緯を経て古代の航海術に興味をもつようになっていきましたか。

▶ p.31

① In 2007, / the Hawaiian canoe *Hōkūle'a* / and another boat *Kama Hele* / sailed from Hawaii / all the way to Japan. // Uchino Kanako was a crew member. // Here's her story. //

1

② I have always loved the sea. // When I was in college, / I visited Miyake-jima / with a friend of mine. // I explored the ocean / and fell in love with ③ its beauty. //

④ Ever since this visit, / I have really been interested in the sea. //

I knew I had to learn more about the sea, / but ⑤ I didn't know where I could study. // And then I found a book / about Nainoa Thompson and the *Hōkūle'a*. //

⑥ I read about how this native Hawaiian learned traditional navigation skills / from his master Mau Piailug of Satawal. // I also learned / that the *Hōkūle'a* successfully sailed / from Hawaii to Tahiti and back in 1976 / by using traditional navigation. //

⑦ I became very interested in the ancient skills / needed to navigate across the ocean. // I made up my mind to go to Hawaii, / and to take a look at the *Hōkūle'a* / with my own eyes. //

(173 words)

Vocabulary

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> canoe 名 | <input type="checkbox"/> nátive 形 |
| <input type="checkbox"/> Hōkūle'a 名 | <input type="checkbox"/> nàvigátion 名 |
| <input type="checkbox"/> Káma Héle 名 | <input type="checkbox"/> Máu Piáilug 名 |
| <input type="checkbox"/> sáil 動 | <input type="checkbox"/> Sátawal 名 |
| <input type="checkbox"/> all the way to ~ | <input type="checkbox"/> succéssfully 副 |
| <input type="checkbox"/> explóre 動 | <input type="checkbox"/> Tahíti 名 |
| <input type="checkbox"/> fall in love with ~ | <input type="checkbox"/> áncient 形 |
| <input type="checkbox"/> beauté 名 | <input type="checkbox"/> návigáte 動 |
| <input type="checkbox"/> ever since ~ | <input type="checkbox"/> make up one's mind |
| <input type="checkbox"/> Nainóá Thómpson 名 | |

情報の整理

■ 内野加奈子：.....号(伴走船.....号)の.....
→.....年に.....から.....へ航行

■ 内野さんがカヌーのクルーになった経緯

きっかけ

.....時代に行った.....島で海を探索し、その.....に心をうたれる。

書籍との出会い

内容

- ・.....が、師匠の.....
(.....島出身)からどのように.....を学んだか。
- ・.....号が.....を用いて.....から.....まで往復した
こと。

興味

.....するのに必要とされる古代の技術について

決心

.....へ行き、自身の目で.....号を見よう！

本文の理解

① 文構造

S = () () () ~ () () V = ()

② ★ have ... loved 「~を(ずっと)愛している」: 現在完了形(have/has + 過去分詞)で過去のある時点から現在までの状態の継続を表している。

③ its beauty: itsは()()を指している。

④ ★ ever since ~ 「~からずっと」: 前置詞的に用いられている。

★ have ... been interested in ~ 「~に(ずっと)興味がある」: 現在完了形(have/has + 過去分詞)で「過去のある時点から現在までの状態の継続」を表している。

⑤ ★ I didn't know where ... : 〈S+V+O (O=疑問詞節)〉。疑問詞がwhereのとき、「どこで~か」という意味を表す。

⑥ ★ I read about how ... : 〈S+V+about ~ (〈~〉=疑問詞節)〉。疑問詞がhowのとき、「どのように~か」という意味を表す。

this native Hawaiian: 前文の()()のこと。

his master: hisは()()を指している。師匠の名前は()()。

⑦ G-2 the ancient skills needed to ... : neededは過去分詞の形容詞的用法で、名詞()()を修飾している。

★ to navigate across the ocean: to navigate ~は不定詞の副詞的用法で、need(ed)を修飾している。

Q & A

(1) In 2007, where did the *Hōkūle'a* sail to?

(2) What did Uchino Kanako learn from a book about Nainoa Thompson and the *Hōkūle'a*?